

口腔癌について

～津山歯科医師会～

今回は口腔癌についてお話させていただきます。

口腔癌とはその名のとおり、口の中にできる癌（がん）のことで、歯以外のどこにでも発生する可能性があります。

舌癌、歯肉癌、口腔底癌、頬粘膜癌、口蓋癌、口唇癌などがあり、そのうち日本人に一番多いとされているのが舌癌で、口腔癌の半数以上を占めているといわれています。

口腔癌の特徴として、初期は自覚症状がほとんどありません。痛みがある、食べ物や飲み物がしみる、違和感がある、首のリンパ節が腫れる、なかなか口内炎が治らない、などの症状が出てきたときには、癌が進行してしまっている可能性があります。

目に見える症状として、舌や粘膜の変色があります。ほかに、しこりがある、ざらざらした突起、潰瘍、口の中の痛みやしびれ、物が噛みづらい、飲み込みにくい、話しづらい、顎や舌を動かしにくいなどの症状が現れることがあります。

次にそれぞれの癌の特徴についてお話しします。

ぜつ がん
舌 癌



歯が欠けたり虫歯になったりして尖った部分があったり、詰め物や被せ物の不適合、入れ歯の不適合などにより舌に慢性的な刺激が加わると、舌癌を発症する場合があります。初期段階では潰瘍やびらんができますが、進行するにつれて食事の時にしみる、歯ブラシが当たって痛むといった自覚症状が現れてきます。さらに進行すると、食事をするのが困難になる、言葉が発音できなくなるなどの障害が起こり、癌が舌の付け根や咽頭に達すると舌を動かせなくなることもあります。

しにくがん 歯肉癌

歯肉癌の多くは上顎より下顎に発症することが多く、奥歯の近くにみられます。初期段階では歯肉が腫れるくらいで強い痛みはありませんが、進行すると、潰瘍やしこりができ、大きくなると表面がカリフラワー状に盛り上がり、出血が見られます。癌が下顎の神経まで進行すると、下唇の麻痺や歯の痛みを感じる場合があります。

こうくうていがん 口腔底癌

口腔底とは舌の下の部分のことで、癌は前方に多く発症します。喫煙と飲酒が大きく影響していると言われています。初期段階では、小さな潰瘍ができる、粘膜が変色して白斑ができる、充血による紅斑ができるなどの場合があります。



きょうねんまくがん 頬粘膜癌

上下の奥歯の周辺粘膜、口角の後ろなどに発生しやすく、詰め物や被せ物の不適合、合わない入れ歯による刺激、喫煙や飲酒などが主な原因と考えられています。初期段階は小さな潰瘍やびらんがみられます。進行すると顎下リンパ節に転移することがあります。触ったときに粘膜の下にしこりやふくらみがあることがあります。

こうがいがん 口蓋癌

上顎の口蓋部分に発症するもので、喫煙や飲酒、辛い食べ物などの刺激物などが原因であると考えられています。初期段階では痛みはほとんどありませんが、進行すると粘膜の表面が白っぽくなる、赤い斑点ができるなどの症状が現れます。

こうしんがん 口唇癌

口唇粘膜と皮膚の境目あたりに発症します。喫煙や紫外線、アルコールなどが原因とされていますが、口腔内にできる癌に比べて発症率は少ないとされています。

●口内炎と口腔癌の見分け方について

口内炎と口腔癌を見ただけで判断するのは実はとても難しいです。通常の口内炎であれば2週間くらいあれば治ることが多いので、2週間以上治らない口内炎や口の中に異常がある場合は、一度歯科か耳鼻科を受診したほうが良いと考えられます。



●口腔癌の予防について

口腔癌は、口腔内の不適合な詰め物や被せ物や入れ歯などが原因になることが多いので、虫歯を放置したり、治療途中で勝手に通院をやめたりするのはやめたほうがよいでしょう。また、飲酒や喫煙も原因となることが多いので、なるべく控えるようにしましょう。



お問い合わせ先：津山市健康増進課 TEL 0868-32-2069